

ラベル

代田中・3 田島 秋乃

私の近くにいる「厳しい人」

きつと誰かにとつての「優しい人」

自分のことも全ては知らないから

その人のことはほとんど知らない

私を知るわずかなその人のことから

勝手に「厳しい人」とラベルを貼った

本当は

「厳しい人」という人は

この世に誰一人いないのに

本当は

「悪い人」もいない

「いい人」もいない

あるとき誰かにとつての「悪い人」

あるとき誰かにとつての「いい人」

そんな当たり前のことに

知らんぷりで

勝手にラベルを貼ってしまう

ラベルを貼れば

その人の新たな一面に

気づきにくくなってしまふのに

私の近くにいる「苦手な人」

自分にとつてある特徴をもつ人

その特徴たちが

自分にとつて素敵だったり好きだったり

あるときは苦手だったりしたから

勝手に「苦手な人」とラベルを貼った

本当は

「苦手な人」じゃなくて

その人のことを知らないだけなのに

本当は

「嫌な人」もいない

「優しい人」もいない

あるとき私にとつての「嫌な人」

あるとき私にとつての「優しい人」

そんな当たり前のことは

分かっているけれど

無意識にラベルを貼ってしまう

ラベルを貼れば

その人の新たな一面を

脚色して受けとってしまうのだ

私の近くにいる人たち

「怖い人」

「面白い人」

「よく分からない人」

「楽しい人」

みんなにラベルを貼っている

私にも誰かがラベルを貼っている

もしも

勝手にラベルを貼るのではなく

自分にとつて

「怖い」

「面白い」

「よく分からない」

「楽しい」

という特徴をもった

ただの一人の人だと

そう思えたら

その人の新たな一面をどんどん知れる

その人の新たな一面を素直に受け取れる

私は変わろう

私の近くにいる人たち

あの人に

あなたに

私に

貼ってしまったラベルをはがそう

あの人も

あなたも

「○○の人」じゃない

あるとき誰かにとつて

○○という特徴をもった

ただの一人の人だから